

# 古代天皇制における 出雲関連諸儀式と出雲神話

The Izumo Religious Ceremonies and Izumo Mythology in Ancient Imperial System

水林 彪

MIZUBAYASHI Takeshi

はじめに

- ① 出雲関連儀式の変遷—天皇即位儀礼から出雲国造新任儀礼へ—
  - ② 聖武即位時出雲関連儀式体系—律令天皇制の出雲関連儀式体系の成立—
  - ③ 出雲神話の正統と異端—その歴史的転回—
  - ④ 延喜式出雲関連儀式体系—律令天皇制の出雲関連儀式体系の変質—
  - ⑤ 出雲神話・出雲関連諸儀式の起源
- 結びにかえて—古代出雲問題を考えるための根本的視点—

## 【論文要旨】

本稿は、『統日本紀』の記事に散見され、『貞観儀式』や『延喜式』にも見えるところの、出雲国造が天皇に対して賀詞などを奉呈する儀式の意義について考察したものである。

この儀式に関する諸研究は、二つの問題軸に即して、分岐が認められる。すなわち、Aこの儀式の挙行時点に関して、(1)この儀式が、出雲国造新任に際しての儀式であるのか、それとも、(2)天皇即位に際しての儀式であるのかという問題軸と、Bこの儀式の意義について、①天皇に対する国造の服属儀礼か、②天皇即位を出雲国造が寿ぐ儀礼か、③出雲国造祖神による諸神平定のことの天神に対する神話上の報告儀礼の現実における再現儀礼か、④天皇に対して出雲国造が行うタマフリ儀礼か、という問題軸である。通説は圧倒的に(1)①説であるが、大浦元彦氏は(2)②説、関和彦・森田喜久男両氏は(1)③説、菊地照夫氏は(1)④説を唱えられた。

本稿は、以上のいずれにも批判的であり、独自の説を主張する。すなわち、(a)この儀礼の初見である716年や、これに次ぐ724年の儀式すなわち出雲関連諸儀式の原型(律令天皇制成立期における出雲関連儀式)においては、天皇即位儀礼の一環としての、大国主神の高天原=天皇王権への国譲り儀礼であったが、(b)8世紀中葉以降に変質が始まり、『延喜式』(10世紀初頭)には、(1)③の儀式として調え直された、とする見解である。以上のうち、(a)については、天皇即位・出雲国造就任・出雲関連儀式の時間的關係、および、儀式の祭儀神話としての『古事記』神話論の観点から、(b)については、『延喜式』収載の「出雲国造神賀詞」の分析を通じて、論証する。

【キーワード】 古事記, 日本書紀, 出雲国造神賀詞, 出雲神話, 儀式